



銅のすぐれた殺菌性

米政府も認定!

銅の殺菌作用を米国政府が認定!

2008年3月、米国環境保護庁(EPA)より、「銅、真鍮、ブロンズなどは人体に有害な致死性のある病原体を殺菌し、公衆衛生に効果がある」という表示が法的に認可されました。

EPAが公衆衛生に実際に効果があると認めた固体材料は銅が初めてのこと。EPAの認める表示は、独立した検査機関が行った試験結果に基づくもので、

EPAの定める試験方法で行われ、銅および銅合金がMRSAをはじめとする各種病原体を殺菌することを証明したのです。今回の発表により、日本銅センターが注力する銅の殺菌作用の研究がさらに加速し、院内感染予防という観点から、銅がもっと社会に貢献できるようになることが大いに期待されています。



米国での銅の試験風景



米国環境保護庁(EPA)



EPAの認定書例

銅表面が、感染リスクを58%削減!

サウスカロライナ医科大学のM.Schmidt教授は、3つの病院で銅製のベッド欄やベッドテーブル、ナースコールボタン、点滴スタンドなどを使用し、病原菌数および感染率の減少を調査。4年間にわたる調査の結果、2011年7月、WHO ICPCIで「銅表面が感染リスクを58%削減」という検証結果を発表しました。



3病院のICUの環境表面に銅を採用

銅のすぐれた殺菌性

抗菌クリニック

黄銅を環境表面に全面採用した「落合クリニック」

千葉県浦安市にある「落合クリニック」は、院内感染予防を狙い、内装のあらゆる箇所に黄銅を使用した世界初の「抗菌クリニック」として注目されています。

落合クリニックの落合康博院長は「設計者からの提案もあり、銅や黄銅の強力な殺菌性を活かしてドアノブ、ドアハンドル、待合室の壁、受付デスクなどの表面に黄銅板を大量に使用しました。患者さんからは「内装がきれい」で「気持ちが悪くなる」と評判もなかなかです。これからも長い期間、黄銅の抗菌・殺菌性により院内を衛生的に保てることを期待しています。また、通常の感染予防対策と合わせ、インフルエンザの感染拡大の予防に効果が現れると良いですね」と感想を述べられています。



落合康博院長

千葉県浦安市 落合クリニック



患者さんからスタッフまで、人の手が触れるさまざまな箇所に黄銅を採用

● 落合クリニック (BrassClinic)
細菌検査で黄銅部分の殺菌効果を確認

診察室ドア把手
(Brass)診察室ドア把手
(Control)